

令和新時代の県立高等学校教育実施計画

<前期（令和9年4月1日実施分）>

令和8年1月16日

鳥取県教育委員会

目 次

はじめに	1
第1章 基本方針（令和6年3月16日策定）の概要	2
1 基本方針策定の背景	
2 県立高校がめざす新しい姿	
3 新しい姿の学校づくり（規模、配置等）	
第2章 基本計画＜前期＞（令和8年度～令和12年度）（令和7年3月15日策定）の概要	6
1 前期（令和8年度～令和12年度）基本計画の観点	
2 前期（令和8年度～令和12年度）再編概要	
第3章 前期（令和9年4月1日実施分）実施計画	10
I 専門性の高度化	
<input type="checkbox"/> 鳥取工業高校	
<input type="checkbox"/> 米子工業高校	
II 学科を超えた学びの推進（総合選択制高校における学び）	
<input type="checkbox"/> 鳥取湖陵高校	
<input type="checkbox"/> 境港総合技術高校	
III 小規模校における特色ある学びの推進	
<input type="checkbox"/> 日野高校	
資料	30

はじめに

鳥取県教育委員会では、令和6年3月16日に「令和新時代の県立高等学校教育の在り方に関する基本方針（令和8年度～令和17年度）」（以下「基本方針」という。）を策定しました。基本方針は、生徒の学びを第一に考え、本県県立高等学校（以下「高校」という。）が中学生にとって魅力があり、期待に応えていく存在であり続けることが最も重要だという考えのもと、高校が、将来の人生設計を描き、自分らしい生き方の実現に向けた魅力ある学び場であるために、社会の変化、県民や地元産業界のニーズ、また教育における不易と流行を見定めながら、多様化する生徒の意向や目的を大切にした視点で策定しました。また、令和7年3月15日には、基本方針の内容を具体化・明確化し、その実現を図るため、「令和新時代の県立高等学校教育の在り方に関する基本計画＜前期＞（令和8年度～令和12年度）」（以下「基本計画」という。）を策定しました。基本計画は、生徒数の減少をはじめ、教育を取り巻く環境の変化が激しいことから、令和8年度～令和12年度までを前期、令和13年度～令和17年度までを後期とし、2期に分けて策定することとしています。

このたび、基本計画に示す方向性を実現させるため、各高校が今後取り組んでいく特色ある教育活動を「令和新時代の県立高等学校教育実施計画＜前期（令和9年4月1日実施分）＞」として策定しました。

平成元年（1989年）以降の本県中学校卒業生数は平成元年3月の9,657人をピークに減少傾向で、令和7年3月には4,892人とおよそ半減しています。今後の推計はさらに厳しく、基本方針最終年度の令和17年3月には4,051人、その後も継続してさらなる減少が見込まれ、令和6年度に産まれた子どもたちが高校に入学する頃には3,000人程度になると推計されます。（令和7年5月1日時点推計）

このような中においても、多様化する生徒の学習ニーズに応え、個々の能力を最大限伸ばすための教育課程の編成や学校行事等の質の向上を図り、教育効果を最も発揮できる特色ある高校である必要があります。

引き続き、県立高校教育の振興への使命を強く認識し、高校や地域等と緊密に連携しながら、魅力と活力ある学校づくりに全力で取り組んでまいります。

令和8年1月
鳥取県教育委員会

第1章 基本方針（令和6年3月16日策定）の概要

1 基本方針策定の背景

鳥取県教育委員会では、生徒一人一人の資質・能力を最大限に伸ばし、それぞれの夢や目標の実現に向けた可能性を広げる高校教育をめざしています。

令和6年3月16日に策定した基本方針は、今後の変化の激しい社会の中であっても、教育効果が最大限発揮され、すべての生徒が満足できる本県ならではの高校教育を推し進めていくことが必要という考えに基づいています。

高校が、ウェルビーイングの向上を図るとともに将来の人生設計を描き、自分らしい生き方実現に向けた、中学生にとって魅力があり、期待にこたえていく学び場であり続けるために、社会の変化、県民や地元産業界のニーズ、また教育における不易と流行を見定めながら、多様化する生徒の意向や目的を大切にしながら高校教育を改革していきます。

（1）社会情勢の変化

DX¹の進展により、情報流通の速度や質が飛躍的に向上していることで、コミュニケーション上での地理的、心理的な制約が低減しています。まさに Society5.0²が実現しつつある中で、さらに加速するグローバル化への対応や、世界規模で生じている様々な課題解消のための SDGs³達成に向けた活動など、それらを推進することのできる人材が求められてきます。

変化が激しく、予測不能なこれからの社会において、その変化に対応し、自ら課題を発見し、解決に向けて考え、取り組む力、新しい価値観を創造していく力を身に付ける学びへの変革が必要です。

（2）教育ニーズの多様化

グローバル化や SNS の発展により、若者たちの人との関わり方や生活スタイルが変化している中、多様化する生徒の学習ニーズや興味・関心、進路希望、また保護者や社会が求める教育ニーズに対応するため、教育活動の質の向上を図り、多彩な学びの形態を提供できる体制や環境づくりを進めることなどにより、学びの幅を広げていくことが必要です。

（3）中学校卒業生数の減少

前述したとおり、中学校卒業生数の減少が続く中で、結果として高校の小規模化が進んでいます。その中においても、小規模のメリットと一定規模のメリットのバランスを踏まえつつ、教育効果を最大限発揮できる適正な規模を維持しながら個々の能力を伸ばす特色ある学校づくりを進め、各高校が生徒の期待にこたえていく存在であり続けることが必要です。

2 県立高校がめざす新しい姿

自分の夢や目標の実現に向けた可能性を広げるために
「社会とつながり 体験する 選択できる 新しい学び」を創造します

令和8年度～令和17年度の期間において、すべての高校が、生徒一人一人の夢や目標の実現に向けた可能性を広げられるよう「社会とつながり 体験する 選択できる 新しい学び」を創造する学校をめざします。

■方針1：生徒一人一人の資質・能力や可能性を最大限伸ばす学びを推進します。

(めざす生徒像)

- 課題を発見し、コミュニケーションをとおして協力しながら創造的に解決できる生徒
- デジタル改革が進むこれからの時代に柔軟に対応できる生徒
- 自己の学びを評価、点検、コントロールしながら学び続けることができる生徒
- 多様性、協働性、寛容性を身に付け、異なる考えや価値観を尊重し共有できる生徒

■方針2：将来の地域を支える人材を育てるふるさとキャリア教育を推進します。

(めざす生徒像)

- ふるさと鳥取への思いを持ち、将来どこに住んでいても鳥取県を誇りに思いながら、自分の暮らす地域で活躍できる生徒
- 自立し、自分らしい生き方を実現できる生徒
- 魅力と活力あふれる「元気なふるさと鳥取」を創造し、支えていくことができる生徒

■方針3：様々な現代的諸課題に対応し、鳥取県や日本、世界に貢献できる力を育成する学びを推進します。

(めざす生徒像)

- 持続可能な社会の創り手となるため、新たな価値観を創造できる生徒
- 豊かな国際感覚、人権感覚を備え、ダイバーシティに富んだ世の中で活躍できる生徒
- 鳥取県の豊かな資源や環境を活かし、地域や世界の持続的発展に寄与できる生徒

3 新しい姿の学校づくり（規模、配置等）

■規模、配置等の考え方（前期・後期共通）

- 計画策定の際には、一定の科目選択が可能となる1学年あたり3学級以上を標準とするとともに、中山間地域の高校は、地元自治体等地域との関わりを考慮した上で、地域における高校の役割が大きい場合には1学年あたり2学級以下であっても小規模校として設置することとし、地元自治体等地域と連携し、地域の特性を活かした魅力化の一層の推進や地域外からも生徒を呼び込むことのできる特色あるカリキュラム編成、学習機会充実のための遠隔教育導入等の検討、学生寮等の安心して生活できる住環境の整備等を図ります。
- 東中西部地区にそれぞれ商業の分野、工業・情報の分野、農業・水産の分野、家庭・福祉の分野を学べる高校を設置します。
- 本県ならではの資源を活かした特徴的な学科（コース）は県内1校のみであっても設置を継続し、遠隔地からの入学者を受け入れられるよう、地元自治体等地域と連携し住環境の整備を図ります。
- 県立高校すべてを小規模化した場合、県立高校全体の活力低下が危惧されるため、一定の配慮が必要であり、一定規模の高校を配置することを検討します。
- 特に専門学科と中山間地域の高校では、環境や学習内容を踏まえた柔軟な定員設定を検討します。
- 県立高校における少人数学級の実施について、その効果や財政負担を十分に検証し、慎重に検討を進めます。
- 今後の中学校卒業生数の減少を踏まえ、県外生徒募集について全県立高校での導入を検討します。あわせて、地域と連携した住環境整備や各地区における寮の整備などについて、今後も検討を進めます。
- 専門学科の高校における専攻科の設置について調査・研究を行います。

■前期再編の考え方

各高校の特色化をより推進し、主に中山間地域の高校や地域における人材育成を図る専門高校についての整理、再編などを検討し、より専門性を高度化します。

- ①中学校卒業生数の減少を踏まえ、前期中に240人程度の募集定員減を目途に規模の適正化を図ることとし、原則、学校数は維持したまま、学科の集約や学級減による整理、再編を進めます。
- ②現基本方針における「小規模校の在り方に関する基準」を引き続き適用します。

[小規模校の在り方に関する基準]

■1学年あたり3学級の学校について

入学者数が、2年連続して募集定員の3分の2に満たない場合は、原則として、募集定員を1学年2学級とする。ただし、この基準の適用に当たっては、県全体の学科の配置状況等を考慮する。

■1学年あたり2学級以下の学校について

入学者数が、2年連続して募集定員の2分の1に満たない場合は、特色ある取組の推進状況や通学等にかかる地理的・経済的な家庭の負担等を踏まえ、分校化や再編、全国からの生徒募集など新たな特色の設定等を選択肢とし、3年程度を目途に当該学校の在り方を検討する。

■なお、人口減少社会の中で少子化対策や雇用の創出などに取り組んでいる本県の状況を踏まえ、地域と連携した人材育成など小規模校ならではの特色ある取組を推進している学校については、その存続に最大限の努力を払う。

- ③特に、中山間地域の高校は、地元自治体等地域との関わりを考慮した上で、地域における高校の役割が大きい場合には、1学年あたり2学級以下の学校規模であっても小規模校として設置するとともに、次の取組を実施します。
 - ・地域外から生徒を呼び込むことのできる特色あるカリキュラム編成を検討します。
 - ・地元自治体等と協力した学生寮等住環境の整備を図ります。

■後期再編の考え方

前期の対応以降の社会情勢等の変化を踏まえて、東中西部地区の高校の整理、再編等により特色ある新しい姿の学校の設置を検討します。あわせて、県立中高一貫校の設置などについても調査・研究を行います。

①中学校卒業者数の減少を踏まえ、後期中に480人程度の募集定員減を目途に規模の適正化を図ることとし、高校の再編・統合を進めます。

規模の縮小を図る際には、前期期間中に、2年続けて1学級分の募集定員数を超える定員割れが生じた高校、学科を中心にその在り方を見直し、社会環境の変化等を踏まえた上で計画を策定します。

②普通科を加えた総合選択制高校の設置や、普通科において農業や商業などの専門科目を履修できるカリキュラム編成を検討します。

なお、対象となる学校名を令和10年度中に公表、学科等の詳細を令和11年度中に公表する予定ですが、状況の変化等に応じて計画の修正等を行うことも想定しています。

※これらの方向性は、今後の中学校卒業者数の推移が現時点の推計どおりに進行するとともに、社会情勢や国・県の施策等に大きな変更がない場合のものであり、想定と異なった状況が発生した場合には、柔軟に方針を変更することも想定しています。

第2章 基本計画<前期>（令和8年度～令和12年度）（令和7年3月15日策定）の概要

- 前期は、将来の鳥取県を支える人材育成をさらに推進するため、専門学科を整理するとともに、より専門性を高度化します。
あわせて、各地区において規模の適正化を図り、それぞれの高校の魅力化を推進します。
- 後期（令和13年度～令和17年度）において、新たに普通学科等を加えた総合選択制高校の設置などを検討します。

本計画は、中学生の入試動向、中学校卒業生数の推移が現時点の推計どおりに進行するとともに、社会情勢や国・県の施策等に大きな変更がない場合のものであり、想定と異なった状況が発生した場合には計画を変更することも想定しています。

1 前期（令和8年度～令和12年度）基本計画の観点

（1）専門性の高度化

生徒一人一人の興味・関心・キャリア形成の方向性は多様化が進んでいます。その多様な生徒一人一人に対応しながら能力を最大限に伸ばしていくためには、様々な学習ニーズに対応できる幅広い選択肢を用意し、方向性や目的の変化にも柔軟に対応できる仕組みや、きめ細かな支援策を講じる必要があります。

高校において、将来にわたって魅力的で特色のある学びを展開するために、普通学科、総合学科、専門学科の高校を設置しています。

中でも専門学科については、商業、工業、情報、農業、水産、家庭、福祉といった学科を設置し、地元産業界等と連携しながら、産業界のニーズを踏まえた人材育成を進めてきています。

今後も地元産業界等との連携を継続して進めるとともに、社会で求められる知識・技術が高度化する中において、地域産業の担い手となるスペシャリストの育成や、最新の技術に対応し、挑戦できる学びを推進していく必要があります。

現在、東部地区及び西部地区においては、工業学科を複数校に分散して設置していますが、施設・設備を集約し、教職員を集中することで、より高い専門的な学びの場へ再編します。再編実施は令和9年4月1日とします。

[専門学科集約のメリット]

- ・特に専門科目の教員確保は、近年より困難になっています。集約することで専門知識、技能を持った教職員による教育を実施できます。
- ・施設設備整備には一定の予算を要しますが、集約することで、集中的に投資できます。
- ・集約することで、生徒が多様な意見に触れ、切磋琢磨する機会を設けることができます。

[めざす教育]

- ・DXを活用するより高度な技術の修得
- ・ICTを用いた学びの充実
- ・工業に限らず、データ利活用方法の学び

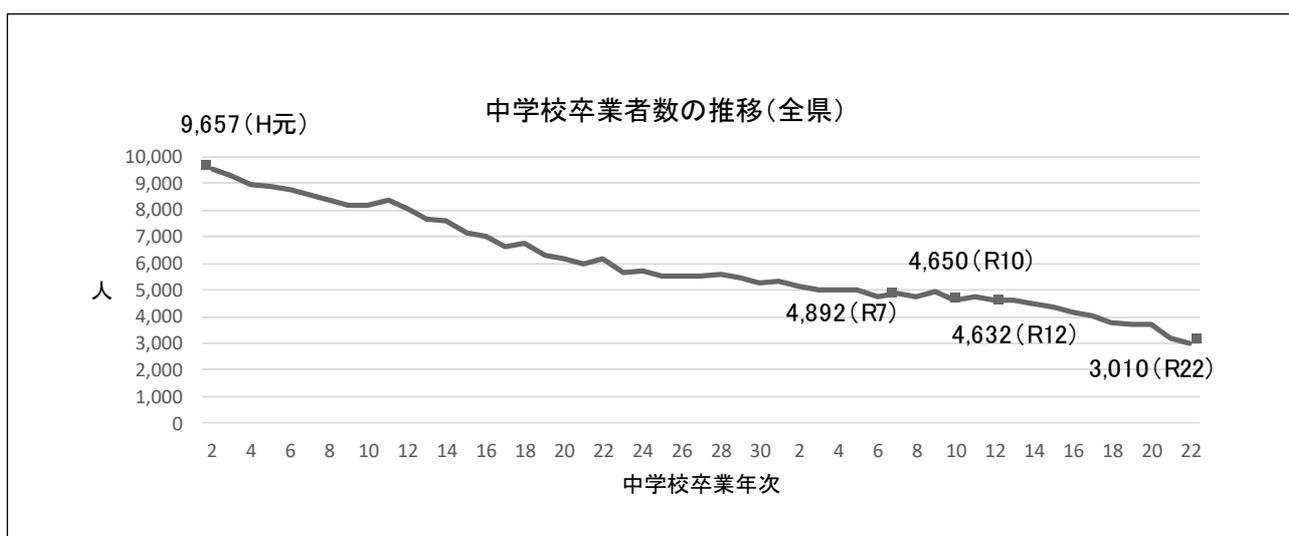
(2) 規模の適正化

平成元年（1989年）以降の本県中学校卒業生数は、平成元年3月の9,657人をピークに減少傾向が続いており、令和7年3月は4,892人とピーク時からおよそ半減しています（▲49.3%）。今後の推計はさらに厳しく、基本計画最終年度の令和17年3月の中学校卒業生数は4,051人、さらにその後も継続して減少が見込まれ、令和6年度に産まれた子どもたちが高校に入学する頃には3,000人程度になると推計されます。（令和7年5月1日時点推計）

平成10年3月に策定した高校教育改革基本計画に基づいた平成10年台前半の高校教育改革においては、生徒数減少に対して大規模な再編を行い、全日制課程の高校数は平成11年度の28校から平成15年度には22校となりました。以降20年以上、統合を行うことなく、学級減で対応してきました。この中学校卒業生数の減少に対して、今後も学級減で対応していくと、学校の小規模化が進みます。

小規模の学校においては、生徒一人一人に目が届きやすく、きめ細かな指導ができるなどのメリットがある一方、生徒が選択できる科目数が少なくなったり、多くの友人と切磋琢磨する機会をつくるのが難しくなるなどのデメリットがあることから、教育目的や地域性、地理的環境等を考慮した上で、教育効果が最大限発揮できる特色ある新しい姿の高校を設置するため、再編・統合も含めて段階的に計画を策定します。

標準的な学級規模について、多様化する生徒の学習ニーズに応え、個々の能力を最大限伸ばすための教育課程の編成や学校行事、部活動等における活力維持のためには一定の規模が必要であり、3学級以上とします。ただし、すでに3学級を下回っている高校も存在し、その高校については、引き続き地元自治体等地域との関わりを考慮した上で、地域における高校の役割が大きい場合には、教育目的や地域性、地理的環境等を考慮した上で、教育効果が最大限発揮できる特色ある新しい姿の高校として、設置を検討します。



2 前期（令和8年度～令和12年度）再編概要

基本方針に基づき、前期期間中に240人程度の募集定員減を目途に規模の適正化を図ります。前期期間中の募集定員減を判断するにあたっては、2段階に分け、判断します。

(1) 専門性の高度化

施設・設備を集約し、教職員を集中することで、より専門性の高い教育をめざします。再編実施は令和9年4月1日とします。

①鳥取湖陵高校の工業学科を鳥取工業高校に再編

再編前（令和7年度）				再編後（令和9年度）				
学校名	大学科	小学科（コース）	募集定員	学校名	大学科	小学科（コース）	募集定員	
鳥取工業	工業	機械	152	鳥取工業	工業	機械	152	
		電気				電気		
		情報工学				情報工学		
		建設工学				建設工学		
			152				152	
鳥取湖陵	農業	食品システム	38	鳥取湖陵	農業	食品システム	38	
		緑地デザイン	38			緑地デザイン	38	
	工業	電子機械	38					
	家庭	人間環境	38		家庭	人間環境	38	
	情報	情報科学	38		情報	情報科学	38	
			190				152	▲ 38

②境港総合技術高校の工業学科の一部（電気電子科）を米子工業高校に再編

※教職員配置等の激変緩和や施設設備の観点から、境港総合技術高校の工業学科（機械科）はひとまず維持します。

再編前（令和7年度）				再編後（令和9年度）			
学校名	大学科	小学科（コース）	募集定員	学校名	大学科	小学科（コース）	募集定員
米子工業	工業	機械	38	米子工業	工業	機械	38
		電気	38			電気	38
		情報電子	38			情報電子	38
		環境エネルギー	38			環境エネルギー	38
		建設（土木、建築）	38			建設（土木、建築）	38
		190			190		
境港総合技術	水産	海洋	38	境港総合技術	水産	海洋	38
		食品・ビジネス	38			食品・ビジネス	38
	工業	機械	38		工業	機械	38
		電気電子	38				
	福祉	福祉	38		福祉	福祉	38
		190			152	▲ 38	

(2) 規模の適正化

①日野高校を1学級減

再編により、日野郡の豊かな自然環境、地域資源を活かし、地元自治体等地域とのさらなる連携を進め、より地域に根差した学び、個別最適な深い学びの充実をめざします。また、遠隔システムを活用した学びを充実し、他の県立高校との連携も進めます。再編実施は令和9年4月1日とします。

再編前（令和7年度）				再編後（令和9年度）			
学校名	大学科	小学科（コース）	募集定員	学校名	大学科	小学科（コース）	募集定員
日野	総合		76	日野	総合		38▲

②その他

今後の中学校卒業生数の推移は、しばらく増減を繰り返し、令和11年度以降は断続的に減少します。

中学校卒業年次	7	8	9	10
中学校卒業生数	4,892	4,731	4,930	4,650
増減 (対前年)	143	△161	199	△280

中学校卒業年次	11	12	13	14	15	16	17	18	19
中学校卒業生数	4,772	4,632	4,606	4,460	4,378	4,132	4,051	3,793	3,687
増減 (対前年)	122	△140	△26	△146	△82	△246	△81	△258	△106

そのため、令和7年度から令和10年度入試の結果を見て判断し、令和10年度中に対象学校について公表します。再編実施は令和12年4月1日を想定しています。

[東部地区]

- ・鳥取東高校、鳥取西高校、青谷高校、岩美高校、八頭高校、智頭農林高校の中から1～2学級程度の募集定員減を検討します。

[中部地区]

- ・倉吉東高校、倉吉西高校、倉吉農業高校、鳥取中央育英高校の中から1～2学級程度の募集定員減を検討します。

[西部地区]

- ・米子東高校、米子西高校、米子高校、境高校の中から1学級程度の募集定員減を検討します。

第3章 前期（令和9年4月1日実施分）実施計画

I 専門性の高度化

鳥取工業高校

地元企業との連携による先端技術を活用した学びや教科等横断的な STEAM 教育をとおして、優れた技術や創造性を育みます。

それにより、社会の持続的発展に貢献する「AI 技術を兼ね備えた人材」や「地域を支えるものづくり人材」の育成をめざします。

大学科	小学科（コース）	募集定員
工業	機械	152
	電気	
	情報工学	
	建設工学	
		152

1 設置学科

○機械科

機械についての仕組みや部品設計、材料の加工方法などの学習をとおして、エキスパートとして活躍できる機械技術者を育成します。

○電気科

発電から利用までの電気の基礎の学習をとおして、著しい技術発展に対応できる電気技術者を育成します。

○情報工学科

コンピュータシステム、プログラミング技術、AI 人工知能等の学習をとおして、新時代に対応できる情報技術者を育成します。

○建設工学科（建築類型・土木類型）

まちづくりの知識・技術についての学びをとおして、最新の技術や情報、高度な専門性を身に付けた建設技術者を育成します。

2 教育課程の特徴

○入学後に自分に合った学科を選択します（くくり募集）

1年次は4つの科（機械、電気、情報、建設）の実習等をとおして、工業について幅広く学習します。2年次からはそれぞれの科で将来の自分の進路に向けて専門性を高め、将来の資格取得や大学等への進学にも対応する学習ができます。

○鳥工版 STEAM 教育を推進します

教科等横断的な学びにより多面的な見方・考え方を学び、「課題研究」を中心とした探究学習によって地域の課題に気付き、ものづくりをとおしてその解決に向けて取り組みます。

○最先端技術を習得する学びを推進します

生成 AI、VR ゴーグル、3D プリンタ、モーションキャプチャやドローンなどの先端機器やデジタル技術を活用し、産業界や研究機関と連携し、社会の様々な課題解決に取り組みます。

3 特色ある学校設定科目（学校独自の学び）

○プロダクトデザイン（1年）

「プロダクト（製品）」の意味する「目に見える具体的な物体」ということだけではなく、意識や思考を含めたデザインが重要との考えから、考え方を学ぶデザイン思考や、発想やイメージ力を培うアイデアデザイン等を学習します。他の教科と連携し、共通テーマ（例えば防災）について様々な視点で考え、年度末にはポスターセッションやプレゼンテーションを行います。

○発展測量A・B（2年）（※主な対象：建設技術者をめざす生徒）

実践的・体験的な学習活動をとおして、測量技術を用いた土木工事に必要な資質・能力を身に付け、測量士補試験合格をめざします。地形測量、写真測量、応用測量について学習します。特に写真測量では、ドローンで撮影した複数の写真をつなぎ合わせて地形データを測量する作業工程と作業内容を学びます。

4 特色ある教育活動

○デュアルシステム

3年次に毎週1回3か月にわたる長期インターンシップを行います。各科の専門科目に関連の深い企業での実習をとおして、働くことに対する認識と理解を深めます。

○スーパー工業士

AIをはじめとするデジタル技術等の県独自プログラムを2年次の後期から1年間受講します。一定の成績を修めた生徒を「スーパー工業士」として県が認定します。高度な生産現場に対応する新しいものづくりについて学びます。

○各種技能大会等への出場

様々な技能大会等に出場し、他校の生徒と技術・技能を競います。練習、大会を通じ、相互に切磋琢磨することで自らを高める自己鍛錬の場となります。（旋盤作業、電気工事、測量、木材加工、溶接、ロボット競技、電気自動車、マイコンカー 等）

○テクノボランティア

地域の高齢者宅を訪問し、これまでの学び（専門性）を活かした簡易な点検や修理、清掃をとおして達成感を得たり、技術・技能、コミュニケーション能力の向上をめざしたりします。

○小中学校への出前授業

教員や生徒が市内の小中学校に出向き、アクセサリ作り、ドローン体験、金属板に電流を流したときに発生する熱を使ったホットケーキ作りや防災に関する体験型授業など、ものづくりへの興味関心を引き出すような楽しい授業を実施しています。

○地域イベントでのPR

校外でのラジコンカー操作イベントやものづくり体験イベントに参加し、ものづくりの魅力発信を行っています。クリスマスの時季には若葉台地区にイルミネーションを設置したり津ノ井地区文化祭には生徒作品を展示したりするなど、本校の取組を地域にPRしています。

○インターンシップ

2年生が5日間、地元企業（製造業、電気通信業、土木建築業、サービス業など）で仕事を体験します。日頃の学習内容が現場でどう活かされ応用されているのかを体感するとともに、先端技術に触れ、専門知識や技術の基礎・基本の重要性及び資格取得の重要性を認識することができます。また、学校生活で指導している「5S」※、「あさひ」※等の実践の場とし、実社会における礼儀、基本的な生活習慣の重要性を知ることができるよい期間となっています。

※ 5S…整理・整頓・清掃・清潔・躰

※ あさひ…あいさつ（挨拶）・さほう（作法）・ひと（人）の話を聞く

○社会人講師招へいによる授業実施

作業現場で活躍されている方を講師とし、現場での作業を体験することにより、知識や技術の習得、最新の情勢や現状を知ることができる充実した時間となっています。

○企業見学

複数の企業を訪問し、地元にも先端技術や日本一を誇る製品や技術があることや、これらの企業に従事している先輩方の実践活動を見聞きすることで、社会に果たす役割や勤労の尊さ・意義を理解します。あわせて職業観・人生観及び将来の社会人としての生き方を学び、進路決定に役立てます。

○研修旅行

県外の特色ある工場や企業、大学への訪問により、普段見ることのできない「ものづくりの世界」を見学し、新たな発見や将来の進路選択につなげます。また、大手県外企業に引けを取らない地元企業の技術レベルの高さや特徴を再認識し、将来、地元産業に貢献しようとする意欲を高めます。

○校内企業説明会

昼休憩の時間に生徒対象に企業説明会を実施します。期間中、毎日2社ずつ来校していただき、学年を問わず興味のある生徒が参加できます。各社の事業内容に加え、社会人としての心構え、本校卒業生の様子などを伝えていただくことで、進路選択の大きな判断材料となっています。

○鳥工テック

学校祭（鳥工祭）への来場者（地域、保護者、小中学生等）を対象に、「ものづくり体験」をとおして、ものづくりや実験の楽しさを体感してもらうとともに、展示等により各科での教育内容に触れてもらう機会としています。生徒が直接来場者に説明することにより達成感や充実感を感じることができ、その後の学習意欲に向上が見られます。

○課題研究発表会

3年生が1年間取り組んだ研究内容・成果を地域、地元企業、保護者、学校関係者の方に知っていただくための発表の場です。発表をとおして、学習した技術・技能の成果をアピールすることで「工業教育」の魅力を再認識するとともに、プレゼンテーション力向上の機会となっています。

5 その他（部活動等）

運動部、文化部の部活動に加え、技術研究部、電子技術部、機械同好会、制御情報同好会、建設工学同好会など工学系の部活動があり、全国大会での上位入賞をめざしています。

6 取得をめざす資格・検定

学習をとおして習得した知識・技術が合格水準に到達していることを証明でき、就職・進学に向けてアピールすることができます。

[特徴的な資格・検定]

小学科	資格・検定名	備考
機械科	技能検定3級（旋盤作業）	普通旋盤を用いた基本操作や加工技術を習得し、安全に作業できる能力を証明する国家資格
電気科	第二種電気工事士	600V以下（屋内電気工事）の低圧電気工作物の工事を安全かつ適切に行うための技術と知識を習得していることを証明する国家試験
情報工学科	基本情報技術者試験	ITを活かしたサービスや製品、システム、ソフトウェアを作る人材に必要な基本的な知識と技能を確かめる国家資格
建設工学科	測量士補	測量士は測量の計画立案や実行の責任者、測量士補は測量士の指示の下、測量業務を補助する知識と技能を確かめる国家資格

その他、以下のような資格・検定等もめざせます。

小学科	資格・検定名
全科共通	計算技術検定
	情報技術検定
	危険物取扱者
機械科	技能検定 3 級 (機械検査)
	技能検定 3 級 (機械保全)
	基礎製図検定
	機械製図検定
	初級 C A D 検定
	品質管理検定
	ガス溶接技能講習
電気科	第一種電気工事士
	電気主任技術者 (三種)
	電気工事施工管理者 2 級
	消防設備士 (甲種)
情報工学科	技能検定 3 級 (シーケンス制御)
	技能検定 3 級 (電子機器組立)
	基礎製図検定
	初級 C A D 検定
	I T パスポート
建設工学科	2 級土木施工管理技士補
	2 級建築施工管理技士補
	技能検定 3 級 (建築大工)
	建築 C A D 検定
	色彩検定
	火薬類取扱保安責任者

7 進路

- 進学 4 年制大学工学部、工業系短期大学、専門学校 等
- 就職 県内・県外企業 (機械系、電気・電子系、建設系 等)、公務員 等

8 施設設備整備計画

- ・ドローン等最先端技術を活用した学びに対応できるよう、施設改修を検討します。
- ・実社会において活用されている最先端設備の導入を検討します。

米子工業高校

地域の産業界と連携し、地域を教材とした利用者の視点で「ものづくり」を学ぶとともに、その知識と技術を常識にとらわれることなく活用する学びを実施します。
それにより、新しいものを創り出す技術革新の感覚を育成し、持続可能な地域社会を創る人材の育成をめざします。

大学科	小学科（コース）	募集定員
工業	機械	38
	電気	38
	情報電子	38
	環境エネルギー	38
	建設（土木）	19
	建設（建築）	19
		190

1 設置学科

○機械科

金属加工を中心としたものづくりや設計製図、機械制御についての学びをとおして、機械に関する幅広い知識や技術をもち、高い技術を身に付けた機械技術者を育成します。

○電気科

電気を安全に供給し有効活用する技術についての学びをとおして、電気に関する新たな課題を解決する電気技術者を育成します。

○情報電子科

プログラミング、IoT など情報技術全般や電子回路などの電子技術についての幅広い学びをとおして、電子情報分野で活躍できる情報技術者を育成します。

○環境エネルギー科

山陰地方で化学を専門に学ぶ唯一の科です。電気・電子の基礎、環境化学やエネルギー管理についての化学専門の学びをとおして、環境を大切にす現代社会のニーズにあった人材を育成します。

○建設科（土木）

測量や設計、施工技術についての学びをとおして、都市基盤に関わる土木技術者を育成します。

○建設科（建築）

建築物に関わる設計、製図、木材加工等についての学びをとおして、居住環境に関する幅広い知識を持った建築技術者を育成します。

2 教育課程の特徴

○産業界や地域人材と連携した技術講習や資格指導を推進します

プロから実技指導を受けることで、技能レベルの向上や資格試験の合格を実現します。

○防災・減災に関するものづくりについて学びます

お湯で発電する装置の製作や太陽電池を利用した移動式充電装置の製作、泥水の浄化、ドローン実習等をとおして、専門の学びを防災・減災に活かします。

○充実した設備により最先端技術を習得する学びを推進します。

最新のデジタル機材等の教育環境により、AI やデータサイエンスなどの技術を取り入れた授業を行います。

3 特色ある学校設定科目等（学校独自の学び）

専門性を高め、将来の資格取得や大学等への進学につながる学習に対応します。

○環境エネルギー（環境エネルギー科）

2・3年次にリサイクルの仕組みや大気・水質汚染を防ぐ技術を実験により学習することで、化学の技術で「地球を守るために何ができるか」を学びます。その学びから環境に配慮した洗剤やプラスチックの代わりになる素材の開発など、新しいアイデアによる環境に優しい製品作りを考えます。

○測量応用（建設科土木コース）

1年次に学んだ測量について、写真測量、地形測量、路線測量などを中心に取り組み、個別の専門的な測量について実践的な演習も行いながら学びを深めます。

○土木設計演習（建設科土木コース）

土木構造設計、土木基盤力学、土木施工、測量など1・2年次に学んだ土木の専門科目の内容について、演習を行いながら学びを深めます。

○建築構造応用（建設科建築コース）

1年次に学んだ建築構造について、鉄筋コンクリート構造、鋼構造を中心に学びます。また、建築物の構造に関する課題を見だし、解決策を考え、科学的根拠に基づき結果を検証できるよう、学びを深めます。

○建築構造設計応用（建設科建築コース）

3年次に部材の性質と応力度、不静定構造物の部材に生じる力、構造設計の考え方を中心に演習を行いながら学びます。

○小論文

工業学科における探究活動等の学びを大学等進学先での学びにつなげることを視野に入れ、小論文を書く上での文章の要約や情報収集の仕方、必要となる視点を学習します。

○実践英語

読解及び文法知識を活用した作文を重点的に行います。「書く」事を中心とした活動では、読み手や目的に応じて簡潔に書く活動を行います。また、大学などの入学試験や英語の検定試験などで用いられる表現を含む英文や、工業における製造や研究開発に関連した英文も題材にします。

○発展英語

日常的な話題、物語、評伝、説明、雑誌や新聞の記事などの長文の読解を行います。さらにその内容をもとにリスニングによる内容理解や、工業学科における学びを題材としたテーマを取り上げるなどして、学習した文法やフレーズなどを利用した作文などを行います。

4 特色ある教育活動

○企業見学

1年次に地元の企業を見学し、職業への理解を深め、自分にあった仕事とは何かを考えるきっかけにするなど、未来と日頃の学びを結びつける機会としています。

○地元企業説明会

地元企業に勤務する卒業生や人事担当者から、直接「現場の声」を聞くことができる機会として1・2年生を対象に開催します。このことにより、地元にはどのような企業があるのか、また働く上で必要になることを学びます。

○卒業生による進路講演会

1・2年生を対象に、各科の卒業生から選ばれた若手社会人が在校生に向けて講演を行います。生徒と年代が近いので、より自分事として捉えることができ、また学校生活のヒントを得られます。

- 研修旅行
2年次に2泊3日で山陽・関西方面の企業等を訪問し、地元にはない大規模あるいは専門性の高い施設・設備を見学します。
- インターンシップ
2年次に地元の企業で3日間のインターンシップを実施し、職業人としての体験や社会の規律を学び、学校での学びを社会と結びつける機会としています。
- スーパー工業士
AIをはじめとするデジタル技術等の県独自プログラムを2年次の後期から1年間受講します。一定の成績を修めた生徒を「スーパー工業士」として県が認定します。高度な生産現場に対応する新しいものづくりについて学びます。
- キャリアアドバイザーによる「放課後キャリア塾」
ものづくり人材としての将来の在り方や進路について考えるセミナーをキャリアアドバイザーが放課後に2・3年生を対象として開催し、自己理解、職業理解を深めます。
- 3年生進路講演会
卒業を控えた3年生を対象として、新生活の不安感を解消し、社会人としての自立を促すよう、キャリア教育の経験豊富な講師による進路講演会を実施します。
- 高校生ものづくりコンテスト、ジャパンマイコンカーラリー等各種大会への参加
各種大会への出場に向け、部活動や3年次の課題研究を活かし、練習や研究に励んで、技能を磨き、全国大会にも出場しています。
- 産業界や地域人材と連携した技術講習や資格指導
現場実践豊富なプロの方々から実技指導を受けるほか、資格指導の経験豊富な地域の方に指導していただくことで技能レベルの向上や資格試験の合格を実現します。
- 学校祭の一般公開
毎年秋に開催しており、模擬店、クラスごとの催し、文化部展示、工業科展示・体験、執行部企画イベント、各業界による体験ブースなどを企画し、多くの来場者を迎え入れています。

5 その他（校内指導体制）

工業学科の教職員には企業経験者が多く、現場での実践や製品開発に携わった経験を活かした指導を行っています。このことにより、教科書レベルを超えた機器や工具の高度な操作スキルの習得が可能となるなど、生徒の実態に則した細かな指導により、生徒のものづくりへの興味・関心を引き出します。

6 取得をめざす資格・検定

学習をとおして習得した知識・技術が合格水準に到達していることを証明でき、就職・進学に向けてアピールすることができます。

[特徴的な資格・検定]

小学科	資格・検定名	備考
機械科	2・3級機械加工技能士（普通旋盤作業）	普通旋盤を使いこなす技能を証明する国家資格です。金属などの素材を回転させながら、刃物で削り、図面通りの部品を製作する知識と技能が評価されます。
電気科	第一種電気工事士	一般用電気工作物（低圧（600V以下）で受電する電気設備）だけでなく、最大電力500kW未満の自家用電気工作物の電気工事も施工できる国家資格です。第二種電気工事士の上位資格です。

情報電子科	基本情報技術者	システムエンジニア、プログラマーなど、ITエンジニアに必要な基本的な知識・技能を証明する国家試験です。ITパスポートより上位の資格です。
環境エネルギー科	公害防止管理者水質関係第4種	水質関係有害物質排出施設以外の汚水等排出施設で、1日あたり1,000立方メートル以上1万立方メートル未満の排出水量の工場において、水質汚染防止に関わる業務を担う資格です。
建設科 (土木コース)	2級土木施工管理技士補	土木工事現場で施工管理技士を補佐する役割を担います。補佐として実地での経験を積むことができます。
建設科 (建築コース)	2級建築施工管理技士補	2級建築施工管理技術検定の第一次検定に合格した人に与えられる資格です。補助的な業務に携わり、3年以上の実務経験で2級建築施工管理技士の受験資格を得られます。

その他、以下のような資格・検定もめざせます。

小学科	資格・検定名
全科共通	乙種危険物取扱者
	計算技術検定
機械科	ガス溶接技能講習
	基礎製図検定
	機械製図検定
電気科	第三種電気主任技術者
	第二種電気工事士
	2級電気工事施工管理技術検定(第一次検定)
	工事担任者(アナログ通信)
	工事担任者(デジタル通信)
	消防設備士
情報電子科	ITパスポート
環境エネルギー科	第二種電気工事士
建設科 (土木コース)	測量士補

7 進路

- 進学 4年制大学工学部・情報系学部、工業・情報系短期大学、専門学校 等
- 就職 県内・県外企業（機械系、電力系、建設系 等）、公務員 等

8 設備整備計画

- ・より現代社会の課題に即した学びを実践するため、高性能電子顕微鏡や高性能PC等の最先端設備の導入を検討します。

II 学科を超えた学びの推進（総合選択制高校における学び）

□総合選択制とは

- ・農業や工業、家庭など、異なる専門学科が複数ある学校において、自分が所属する学科の学習だけでなく、興味・関心に応じて、学科の枠を超え他の学科の学習をしたり共通の学習をしたりすることができることが特徴です。
- ・現在は鳥取湖陵高校、倉吉総合産業高校、境港総合技術高校の3校に設置しています。

鳥取湖陵高校

県内唯一の情報学科を擁し、ICT教育を中心に高度な専門知識と技術を習得できる環境で、
学科を超えた総合選択制による学びを実施します。

それにより、情報、農業、家庭の各分野で幅広く地域産業に貢献する人材の育成をめざします。

大学科	小学科（コース）	募集定員
農業	食品システム	38
	緑地デザイン	38
家庭	人間環境	38
情報	情報科学	38
		152

1 設置学科

■情報学科

○情報科学科

コンピュータシステムの構築等、情報に関する幅広い知識と技術を習得することとおして、高度情報化社会で活躍する情報技術者を育成します。1年次から基礎的な学習を行い、2・3年次には専門的な内容へと発展させます。情報の各専門教科では、実習を多く取り入れており、知識の習得に加え、ICT機器の操作や課題制作等に取り組むことで理解を深めていきます。

・情報システム類型

プログラミングや、ネットワークシステム等の学びをとおして、基礎的なプログラミング実習から応用的なシステム開発まで段階的に取り組みます。卒業までに、アプリケーションを開発する等、小規模なネットワークを設定できる技術を習得します。

・コンピュータデザイン類型

情報デザインやコンテンツ制作等の学びをとおして、画像編集や映像制作、アニメーションなどを学びます。授業では作品制作に取り組む時間が多く、学んだ技術を生かしてオリジナルの映像作品やデザインを発表する機会もあります。卒業までに、映像編集ソフトやグラフィックソフトを使いこなし、様々なコンテンツを創作するための知識や技術を習得します。

■農業学科

○食品システム科

生産・加工・流通に関する学習をとおして、食品に関する知識と技術を習得するとともに、安全なものづくりをとおして、地域に貢献する産業人材を育成します。1年次から生産や加工の基礎知識・技術を学び、2年次からは各類型に分かれてより専門的に学習します。

・生産流通類型

環境制御温室におけるトマト、イチゴ、メロンの施設園芸実習をとおし、スマート農業技術について課題を模索しながら学習を深めます。また、露地での各種野菜の栽培実習をとおして、農業

人材としての基本的な知識・技術の習得をめざします。さらには、JGAP 認証圃場において持続可能で安心・安全な農業についても学びます。

- ・食品科学類型

福神漬、味噌、パン等の製造実習や流通について、実習をとおして関連産業で活躍できる知識や技術を習得します。また、鳥取県版 HACCP 認証をとおして、安心・安全な食品衛生管理についても学びます。

- 緑地デザイン科

造園やフラワー装飾、植物の栽培管理に関する学びをとおして、花と緑の空間づくりによる心豊かな生活空間の創造を担う人材を育成します。

1 年次に、農業の基本である野菜栽培をはじめ、造園・製図・測量・植物バイオテクノロジーなどを体験的に幅広く学習します。2 年次からは各類型に分かれてより専門的に学習します。どちらの類型も共通して装飾・庭づくりの基礎となる色彩について学習します。3 年間をとおして各種検定試験や競技会に積極的にチャレンジして専門的な知識・技術の習得を確実なものとするとともに、異校種交流や地域イベントへの参加をとおして、習得した知識・技術を他者に伝える力を養います。

- ・環境緑化類型

2 年次には、基礎的な造園施工や設計、樹木管理、測量などについて学習します。3 年次には、それらの知識・技術をより実践的に学習するとともに、緑化活動をとおして地域環境の保全に対する意識を高めていきます。

- ・装飾園芸類型

2 年次には、草花栽培や室内園芸装飾、基礎的な植物バイオテクノロジーについて学習します。3 年次には、実践的な草花の栽培方法やフラワー装飾について学習し、草花を活用する力を高めしていきます。また、植物バイオテクノロジーに関する知識・技術を深化させていきます。

■家庭学科

- 人間環境科

衣・食・住など家庭に関する様々な理論や技術、福祉や保育、環境・消費者問題など現代社会に必要な幅広い内容の学習をとおし、心豊かな生活を創造する地域の担い手を育成します。

1 年次では基礎的な学習を行い、2 年次から各類型に分かれてより専門的に学習をします。

- ・福祉・保育類型

病院や高齢者・障がい者施設、幼稚園・認定こども園における実習をとおして、福祉・保育に関する知識、技術を習得します。2 年次には食事介助実習、3 年次で自立支援実習や保育実習を行い、コミュニケーション技術を磨いていきます。

- ・食物・ファッション類型

調理実習や洋服・和服の製作実習をとおして、食生活やファッション産業を担う職業人として必要な資質・能力を育成します。家庭科技術検定における調理、洋服、和服の 1 級合格は、三冠王として検定取得の大きな目標となっています。

2 教育課程の特徴

- 全ての科で「情報Ⅰ」を履修し、最先端の情報教育を実践します

情報活用能力を基盤とした各専門学科に必要な知識や技術を身に付けます。

- 多様な進路に応じた学びが選択できます

他学科の科目を選択して学習することにより、一人一人の多様な進路実現を可能にします。幅広く専門性に触れることで新しい価値を生み出すことが可能となります。

○学科横断型の学びをおこないます

異なる学科の生徒が連携して学びます。学科横断型の課題研究をとおり、専門性を活かしつつ、より幅広い知識と柔軟な発想により学びに広がりを持たせます。

3 特色ある学校設定科目（学校独自の学び）

○データサイエンス探究

社会課題（感染症、環境、格差、少子高齢化、天気予報）などを題材に、統計・AI・情報倫理などの分析力とリテラシーを育成します。

○シミュレーションプログラミング

数学や物理のモデルをプログラム化し、シミュレーションで実証します。論理的思考力と応用力を育成します。

○デジタル機器を用いた創造活動

3Dプリンタ等最新設備を活用した創作体験を行います。デジタルを形にする体験をとおり、創造力を養います。

4 特色ある教育活動

○全科合同課題研究発表会

各学科での1年間の探究成果を発表し合うことで、学科の枠を超えた学びの共有と相互連携を深めています。また、他学科の発表に触れることで、新たな視点を得るとともに、異分野の強みやアプローチを学ぶ貴重な機会となり、学びの幅が一層広がります。

○湖陵フェスタ

地域産業を支える人材育成をめざす専門高校として、各学科の取組や学習内容を地域に積極的に発信します。体験や展示、販売、模擬店などの活動を通じて、地域の方にも直接参加・体験してもらうことで地域と連携し、地域貢献を果たすとともに、生徒の学習意欲の向上にも繋がっています。

○DXによる教育の推進

県内唯一の情報学科の強みを活かして教育環境の整備と情報教育の充実を図り、デジタル人材の育成に取り組んでいます。最新の設備導入や公立鳥取環境大学との連携により、生徒の実践的なスキルや課題解決力を育成していきます。

○スーパー農林水産業士

企業や農家での長期インターンシップを中心とした職業教育カリキュラムを優秀な成績で修了した生徒を鳥取県が認定します。

5 取得をめざす資格・検定

学習をとおり習得した知識・技術が合格水準に到達していることを証明でき、就職・進学に向けてアピールすることができます。

[特徴的な資格・検定]

科	資格・検定名	備考
情報学科 (情報科学科)	基本情報技術者試験	コンピュータや情報システムの仕組み、ITを活用した課題解決の考え方など、情報分野の基礎力を身に付けていることを証明する国家資格。
農業学科 (食品システム科) (緑地デザイン科)	日本農業技術検定2・3級	授業や実習をとおり学んだ農業の知識や技術の修得水準を客観的に評価する検定。日本農業会議所が主催。
家庭学科 (人間環境科)	全国高等学校家庭科技術検定(被服製作・食物調理・保育)1~3級	被服製作・食物調理・保育に関する基礎知識と技術の定着を目的とした検定。1級被服はジャケットと浴衣、食物は供応食、保育は音楽、造形表現など。

その他、以下のような資格・検定等もめざせます。

小学科	資格・検定名
情報科学科	情報処理検定
	情報技術検定
	ビジネス文書実務検定
	IT パスポート試験
	情報セキュリティマネジメント試験
	グラフィックデザイン検定
	Web デザイナー検定
食品システム科	スーパー農林水産業士
	ビジネス文書実務検定
	バイオ技術者認定試験初級
	FFJ 検定上級
緑地デザイン科	スーパー農林水産業士
	日本農業技術検定 2 級・3 級
	技能検定（造園）2・3 級
	技能検定（園芸装飾）3 級
	技能検定（フラワー装飾）3 級
	測量士補
	色彩検定 2・3 級
	バイオ技術者認定試験初級
	FFJ 検定上級
	全商ビジネス文書実務検定
	鳥取県福祉ヘルプメイト
ビジネス文書実務検定	
人間環境科	鳥取県福祉ヘルプメイト
	ビジネス文書実務検定

6 進路

- 進学 4 年制大学農学部・情報系学部、保育・福祉系短期大学、専門学校 等
- 就職 県内・県外企業（造園系、福祉系、情報系 等）、公務員 等

7 施設設備整備計画

- ・地域課題解決や新たな価値の創造に挑戦する「湖陵ラボ」の整備を検討します。

水産、工業、福祉分野における、県内オンリーワンの教育環境のもと、スマート教育を推進し、地域の専門家に学び、地域を教材とする多様な教育活動を実施します。それにより、地域の産業界におけるスペシャリストやプロフェッショナルの育成をめざします。

大学科	小学科（コース）	募集定員
水産	海洋	38
	食品・ビジネス	38
工業	機械	38
福祉	福祉	38
		152

1 設置学科

すべての学科において2年次から複数の類型に分かれ、2・3年次ではそれぞれの類型に必要な専門科目・実習を中心に学びます。

■水産学科

○海洋科

若鳥丸による航海実習などとおして、海、船、魚のスペシャリストを育成します。航海実習は原則2年次におよそ1か月の実習を2回実施します。令和8年度には新しい若鳥丸が竣工予定です。

・船長類型

船舶を安全に航行させるために必要な操船技術や航法、航海計器について学ぶことにより航海士を育成します。

・海洋機関類型

船のエンジンを安全で効率的に運行するために必要な知識・技術について学ぶことにより、機関士を育成します。

・海洋探究類型

高等教育機関等と連携した海洋観測や海洋プラスチックごみの調査等、水中ドローンを用いた水産資源調査等を行います。新しい大学入試に対応できる探究力を身に付けます。

○食品・ビジネス科

地元企業と連携した鮮魚や水産加工品販売など、魚食普及活動や商品開発をとおして、地域に貢献する産業人材を育成します。

・食品類型

地元産物を活用した食品の加工技術の学びをとおして、食品技能検定やHACCP基本技能検定など専門的資格取得をめざします。

・ビジネス類型

簿記や情報処理等の学びに加え、実習製品の販売等を行います。

■工業学科

○機械科

山陰地方で唯一、在学中に3級自動車整備士の受験資格を取得できる一種養成施設での学びをとおして、自動車整備士等の機械技術者を育成します。

・自動車整備類型

自動車整備士等の機械技術者を育成し、3年次に3級自動車整備士資格取得をめざします。

・機械類型

旋盤、溶接、レーザー加工機などの操作方法を習得し、実践的なスキルを身に付けます。

■福祉学科

○福祉科

介護、保育等、福祉に関する様々な実習をとおして、社会に貢献できる福祉人材を育成します。

・介護類型

介護施設等での実習を3年間でおおよそ60日間行います。3年次に介護福祉士国家試験合格をめざします。

・こども福祉類型

幼児教育・保育系への進学も含め、地域の福祉を支える人材の育成をめざします。

2 教育課程の特徴

○国家資格の取得につなげます

山陰地方で唯一自動車整備士の資格が取得できます。また、介護福祉士、海技士など将来につながる資格を取得することで地域を支える人材育成につなげます。

○充実した施設・設備で学べます

海洋練習船 若鳥丸、食品加工実習棟、自動車整備実習棟、介護実習室など充実した施設での学びをとおして実践力を養います。さらに海洋データ処理室の整備等も検討し、スマート教育の実施とともに、より地域に役立つ研究を推進します。

○多様な科目から興味のある学びを選択できます

ダイビング、自動車実習、保育音楽、境のさかななど地域資源を活かした地域に根差した学びを進めます。

3 特色ある学校設定科目等（学校独自の学び）

○保育音楽

ピアノ、ギターの基本を学び、乳幼児に音楽の楽しさを伝える技術を養います。

○スクーバダイビング

ダイビング機器やダイビング技術等について学び、水産業や海洋関連産業の振興や社会貢献に主体的かつ協働的に取り組む態度を養います。

○マリスタディ

海洋レジャー、フィッシング、セーリング、船舶の交通ルール、山陰海岸の環境等について学び、安全に海洋活動を行うための技術を身に付けます。

○境のさかな

境港の漁業形態や水揚げされる魚介類について学び、鮮度の見方や栄養・料理方法等についての理解を深めます。

○自動車実習A

エンジン、動力伝達装置、サスペンション等について理解するとともに整備技術を身に付け、3級自動車整備士の資格取得をめざします。

○レクリエーション実習

実際の保育等の企画・立案・実施をとおして、レクリエーション及び社会福祉の在り方について思考を深め、子どもや障がい者、高齢者を取り巻く諸課題について関心を持ち、地域交流をとおして、課題の改善・向上をめざして主体的に取り組もうとする態度を養います。

4 特色ある教育活動

- キッチンカープロジェクト～境総合見える化計画～
キッチンカーをとおして、学科を超えた連携や協働学習を実施します。主に機械科がキッチンカーを製作し、食品・ビジネス科が販売実習を行います。また、福祉科が保育園や高齢者施設等のイベントで活用するほか、海洋科が近海で獲った魚を使い魚食普及活動を行います。
- 専門学科と英語科との探究的な学習の推進
境港という地の利を生かし、国際クルーズ船で水木しげるロード等を訪れる海外からの観光客に対して、英語を使つての接客や観光案内、販売実習を行います。ALT と協力して探究的な学習を展開します。
- 水中ドローンを用いた境総合版ビッグデータの構築
公立鳥取環境大学、米子工業高等専門学校、地域企業と連携し、水中ドローンを用いて美保湾での海洋調査を行います。調査データを5年、10年と蓄積し、データサイエンス学習を展開していきます。
- eスポーツを用いた高齢者施設、特別支援学校との交流
福祉科では、授業等でeスポーツを学び、それをひとつのツールとして高齢者と交流します。導入前後で高齢者がどのように変容したかを記録し分析します。また、特別支援学校との交流においては、特別支援学校の生徒が使いやすいようなコントローラー等を機械科で製作するなど、学科を超えた連携を図ります。
- 県外生徒及び他地域からの生徒募集
全国的にも少ない水産学科を中心に、県外及び県内他地域からの生徒を募集していきます。

5 その他（指導体制）

- ・1年次は共通科目 20～21 時間・専門科目 8 時間、2年次は共通科目 14 時間・専門科目 15～17 時間、3年次は共通科目 8～10 時間・専門科目 19～22 時間です。
- ・教職員による専門教科や資格取得へのサポートが充実しています。

6 取得をめざす資格・検定

学習をとおして習得した知識・技術が合格水準に到達していることを証明でき、就職・進学に向けてアピールすることができます。

[特徴的な資格・検定]

小学科	資格・検定名	備考
海洋科	四級海技士（航海・機関）	船舶職員として必要な資格
食品・ビジネス科	HACCP 基本技能検定	食品の安全性を確保するための国際的な基準である HACCP（危害要因分析・重要管理点）に関する基本的な知識と技能を評価する検定
機械科	3級自動車整備士	自動車整備の達人をめざす為に必要な国家資格
福祉科（介護類型）	介護福祉士	介護現場の専門的知識・技能を証明する唯一の国家資格。福祉施設への就職に有利

その他、以下のような資格・検定もめざせます。

小学科	資格・検定名
海洋科	一級小型船舶操縦士
	第二級海上特殊無線技士
	潜水士
	ダイビングCカード
	水産海洋技術検定
	漁業技術検定
	エンジン技術検定
食品・ ビジネス科	水産海洋技術検定
	食品技能検定（1～3類）
	ビジネス文書実務検定
	情報処理検定
	簿記実務検定
	2級ボイラー技士
	危険物取扱者
機械科	各種技能士3級
	危険物取扱者
	2級ボイラー技士
	ガス溶接技能講習
	小型車両系建設機械運転業務特別教育（フォークリフト1t未満）
	計算技術検定
	情報技術検定
福祉科	作業主任者
	介護職員初任者研修
	鳥取県福祉ヘルプメイト
	全国高等学校家庭科技術検定
	ビジネス文書実務検定

7 進路

- 進学 4年制海洋系大学、福祉系短期大学、専門学校 等
- 就職 県内・県外企業（水産系、海運系、福祉系）、公務員 等

8 施設設備整備計画

- ・水中ドローン等で収集したデータを蓄積し、分析、研究を行うために必要な設備の整備を検討します。
- ・海洋調査で捕獲した魚の観察、飼育や、中海のマハゼの研究として稚魚の養殖を行うなど、大型水槽の設置を検討します。

III 小規模校における特色ある学びの推進

□学校が小規模であることのメリット・デメリット

メリット

- 生徒数が少ないため、教職員にとって生徒一人一人に目が届きやすく、きめ細かな指導ができる。
- 異年齢の生徒同士の交流の機会をつくりやすい。
- 学校行事等で中心的な役割を担う機会が増える。
- 学校施設を広く、余裕を持って使用することができる。
- 小規模であれば登校できる、または登校したいと考える生徒のニーズに応えることができる。
- 中山間地域に位置する高校の場合、高校の存在自体が地域活性化の核となっている。

デメリット

- 各高校の教職員数は生徒の収容定員によって決まるため、学校が小規模化すると教職員数が少なくなり、生徒が選択できる科目数が少なくなる。(高校では、教科が複数の科目に分かれており、例えば「理科」は「物理」「化学」「生物」「地学」に分かれ、それぞれ専門の教員が担当する。しかし、小規模校では、教職員数が少なくなるため開講できない科目が生じることが懸念される。)
- 学校規模の大小に関係なく、教職員は学校行事の企画・運営や各種会議への参加などの業務を行う必要があり、教職員数が少ないと今以上に多忙となることが想定される。
- 様々な考えを持った多くの生徒と切磋琢磨する中で成長する機会をつくるのが難しい。
- クラス替えが難しく、生徒同士の人間関係がこじれた際の対応が難しくなる。
- 部活動の数が限られ、希望する部活動に入部できないケースが増加する。
- 小規模であっても学校運営のための人件費、環境整備費等の一定の財源が必要となる。

日野高校

日野郡の豊かな自然環境、地域資源を活かした学びや、
地元三町との連携による地域課題解決型の学びをとおして、
温かな人間性と社会で必要な実践力を身に付けます。
それにより、地域社会の持続的発展に貢献できる人材の育成をめざします。

大学科	小学科（コース）	募集定員
	総合学科	38

1 設置学科

○総合学科

一人一人の進路希望にあわせた柔軟な学習を行うことをとおして、地域社会の持続的発展に貢献できる人材を育成します。

2 教育課程の特徴

○総合学科の特徴を最大限に活かし、一人一人の学びの幅を広げます

普通教科に加え、農業、商業、家庭・福祉の実践的な学びを展開します。

教科等横断的な学び（商業×農業、農業×福祉）など、各科目の学びを他の科目の学びに活用することで、学びの相乗効果を創出し、新たな価値を創造します。

○自らの将来を考え、主体的に自分だけの時間割を作ります

主に2年次、3年次に、多彩な選択科目を組み合わせ、自らの学びをデザインします。

一人一人の興味関心、進路に応じて学ぶことができます。

一人一人に寄り添った丁寧な学びを進めます。

○多様な意見に触れ成長できます

県外等から入学した生徒との対話的な学習や、地域との深い関わり、遠隔システムを活用した県内外の高等教育機関との連携による講演会等の開催や他高校との探究成果の発表・交流会の実施といった多様なつながりの中で、様々な意見に触れ、多様性、協働性、寛容性を身に付けます。

○地域資源を活かした魅力ある学びができます

地域資源を活かした体験的な学びを進め、各教科・科目における基礎・基本と「社会で生きる力」を身に付けます。

地域特有の自然環境を存分に活かした学びを進めます。

地域の人たちと交流する学びを進めます。

3 特色ある学校設定科目等（学校独自の学び）

○郷土芸能（1年次～）

郷土の伝承芸能について、その歴史や継承していくことの大切さ、またその課題について探究的に学習するとともに、荒神神楽「八重垣能」の基本的演舞の習得をめざします。

○たたら（1年次～）

地域と連携し、日野地域におけるたたら文化について学ぶとともに、高等教育機関等と連携し、たたら製鉄を科学的に学習します。また、たたらにより製鉄を行った素材を用いて創作活動を行います。

○ミュージックセラピー入門（2年次）

音楽の力をおして、より良い生活をするために歌唱や楽器を用いた簡易伴奏を中心に学習します。地域における交流活動等で実践的な学びを展開することを想定しています。

○レクリエーション基礎（3年次）

交流学習や実践的な実習、実技指導をおして、子どもや高齢者との関わり方を学びます。また、集団で協力しながら交流活動を運営します。

○アクア（2年次）

私たちの暮らしを支えている水について学びます。（「水と日本文化」「水と地球環境」「水と農業」）

○コンピュータデザイン（3年次）

画像処理ソフトウェアを活用して、図形や画像の作成・編集方法を学び、効果的な表現方法を身に付けます。

4 特色ある教育活動

○海外実習旅行（2年次）

海外での販売実習等、海外の企業及び事業所等で実技交流・実習活動を体験します。また、海外の教育機関等との連携を図り、交流を行います。

○ふれあい動物園（2年次～）

大山トム・ソーヤ牧場と連携し、農業科目「生物活用」における「生物を活用した療法」や「動物の飼育と活用」等の学びを行います。愛玩動物等とふれあうとともに、小学生や高齢者との交流活動を企画・運営します。

○日野高ショップ（2年次～）

日野町内の交流拠点であり複合施設である「金持テラス」及び黒坂施設を店舗とし、実習商品等を地域の方へ販売し、接客をおして優しさや思いやりの心の育成を図ります。

○日野高版デュアルシステム（3年次）

生徒が教室と各事業所等の実習先を往来することにより、学習内容の深化を図るとともに、コミュニケーション能力やビジネスマナーなどの資質向上を図ります。

- 日野学園との交流学習（2年次～）
農場において、地元日野学園の生徒とともに田植え、田車押しによる除草、稲刈り、脱穀、栽培の発表会などとおして、イネの栽培について学びます。
- 「健康ゲーム」の活用（2年次～）
「健康ゲーム指導士」養成講座の開催やゲームをとおして高齢者施設等での交流等、フレイル予防やレクリエーションについての探究学習を行います。
- 保育施設、高齢者介護施設での実習（2年次～）
近隣保育施設、高齢者介護施設での実習を実施します。
- 「日野のまち "つながり"コンサート」（1年次～）
地域の音楽団体と合同の合唱講座及び演奏会を実施します。
- アウトドア実習（3年次）
日野郡の恵まれた自然環境を活用し、ラフティング、カヌー等を体験します。

5 特色ある部活動等

- 郷土芸能部
地域の伝承芸能である荒神神楽「八重垣能」の演舞とお囃子の技術を身に付け、全国高等学校総合文化祭等、各種大会への出場をめざし、日々の練習で技を磨きます。また、地域の祭りや行事等で演舞を披露し、年間を通じた地域貢献活動に意欲的・積極的に取り組みます。
- 射撃部
県外等からの生徒からも人気が高い部活動です。ビームライフル、ビームピストル、エアライフルの各種競技種目の技術を身に付けるとともに、高い集中力など、精神面も鍛えます。中国地区大会や全国大会に出場する選手も多く、東京オリンピックに出場したオリンピックも輩出しています。
- 日野高合唱団
音楽部員及び芸術科目「音楽」選択者等により学校独自に構成する合唱団で、鳥取県高等学校総合音楽会のほか、「日野の町つながりコンサート」等、地域イベントへも参加し、文化活動を通じた地域交流に意欲的・積極的に取り組みます。

6 双葉寮（寄宿舍）と特色ある地域活動

- 双葉寮（寄宿舍）
主に県外からの入学生徒が入寮し、共同生活、集団生活の中で主体性や協調性を身に付けます。また、自宅を離れ、洗濯や掃除など日常生活に必要なことを自分自身で行い、規則正しい生活を送る中で、生徒一人一人の自立に向けた成長を促します。
- 特色ある地域活動
日野町との連携・協力のもと、日野町配置の日野高校魅力向上コーディネーターをはじめ、多くの地域住民のサポートにより、入寮生徒は地域における各種行事等へ活躍の場を広げ、自然体験や農業体験などの体験活動への参加をとおして、さまざまな学びを得ることができます。

双葉寮生参加の主な体験活動等	
春季	日野町長訪問
夏季	ホテル観賞 ササ巻・朴葉餅作り ジャガイモ掘り・カレー作り 根雨神社清掃・しめ縄作り ねう祭り・よさこい参加
秋季	日野町駅伝 カヌー教室 根雨神社祭
冬季	高尾地区もちつき 双葉寮周辺地域雪かき

7 取得をめざす資格・検定

学習をとおして習得した知識・技術が合格水準に到達していることを証明でき、就職・進学に向けてアピールすることができます。

[特徴的な資格・検定]

資格・検定名	備考
全商検定	商業教科の習熟度を測る検定。 上位級の取得により、大学入試等の出願要件を満たしたり、評価の対象となったりする場合がある。
小型車両系建設機械運転業務特別教育	土木、建設、建築業等の就職に有利。
介護職員初任者研修修了資格	介護、高齢者福祉施設等への就職に有利。

その他、以下のような資格・検定等もめざせます。

危険物取扱者	小型ボイラー取扱資格	フラワー装飾技能士
ガス溶接	アーク溶接技能	日本農業技術検定
鳥取県福祉ヘルプメイト	健康ゲーム指導士	全国高等学校家庭科技術検定 (食物調理・保育)

8 進路

- 進学 4年制大学、保育・福祉系短期大学、専門学校 等
- 就職 県内・県外企業（福祉系、宿泊業、食品系）、公務員 等

9 施設設備計画

- ・現在、日野校舎、黒坂施設の2か所で学習活動を行っていますが、より効果的、効率的な学習活動を持続的に継続させるため、2校舎活用の在り方を検討していきます。

〔資料1〕 郡市別児童生徒数の推移（平成20年度～令和22年度）

令和7年5月1日現在

中学卒業年次 (現在の学年)	学校基本調査																				推 計														
	中 学 卒 業 者 数																																		
	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31 (R1)	R2	3	4	5	6	7	8	9	10 (中2)	11 (小6)	12 (小5)	13 (小4)	14 (小3)	15 (小2)	16 (小1)	17 (5歳)	18 (4歳)	19 (3歳)	20 (2歳)	21 (1歳)	22 (0歳)		
全県	6,173	5,972	6,175	5,645	5,741	5,540	5,518	5,569	5,443	5,256	5,337	5,129	5,005	5,023	4,998	4,749	4,892	4,731	4,930	4,650	4,772	4,632	4,606	4,460	4,378	4,132	4,051	3,793	3,687	3,699	3,208	3,010			
(増減)	△ 109	△ 201	203	△ 530	96	△ 201	△ 22	△ 2	53	△ 126	△ 187	81	△ 208	△ 124	18	△ 25	△ 249	143	199	△ 280	122	△ 140	△ 26	△ 146	△ 82	△ 246	△ 81	△ 258	△ 106	12	△ 491	△ 198			
鳥取市	1,918	1,914	1,845	1,738	1,760	1,759	1,636	1,741	1,686	1,604	1,729	1,580	1,578	1,612	1,602	1,502	1,504	1,460	1,587	1,438	1,584	1,544	1,566	1,422	1,373	1,331	1,355	1,349	1,258	1,263	1,048	1,032			
岩美郡	137	121	136	99	108	96	111	100	106	89	111	102	107	84	83	61	78	96	77	79	78	73	79	76	83	71	75	74	79	76	61	49			
八頭郡	309	343	314	318	303	271	238	251	260	229	255	203	205	208	203	165	189	182	169	191	184	170	145	176	165	137	144	151	104	130	87	83			
東部地区																																			
気高郡	161	160	156	158	159	156	158	158	138	145	143	135	143	142	142	138	143	145	142	138	68	70	69	72	65	67									
鳥大附属																																			
青翔開智中																																			
小計	2,525	2,538	2,451	2,313	2,330	2,282	2,143	2,202	2,265	2,192	2,146	2,069	2,049	2,090	2,072	1,914	1,957	1,935	2,029	1,901	1,914	1,857	1,859	1,746	1,886	1,606	1,574	1,574	1,441	1,469	1,196	1,164			
(増減)	△ 124	13	△ 87	△ 138	17	△ 48	△ 139	59	63	△ 73	△ 46	73	△ 150	△ 20	41	△ 18	△ 158	43	△ 22	94	△ 128	13	△ 57	2	△ 113	△ 60	△ 80	△ 32	0	△ 133	28	△ 273	△ 32		
倉吉市	499	505	519	501	450	448	461	457	448	422	406	398	430	401	423	401	421	378	371	403	361	386	356	368	367	364	338	323	294	272	272	260	223		
東伯郡	639	590	606	532	536	515	530	533	497	546	491	531	472	461	481	464	503	448	467	444	461	498	437	403	436	414	388	335	393	350	307	275			
湯梨浜学園中	17	24	17	29	31	24	27	24	27	23	24	34	21	27	40	24	29	32	39	29															
小計	1,138	1,112	1,149	1,050	1,015	994	1,015	1,017	969	995	920	953	936	883	931	905	921	851	909	834	847	854	805	770	800	752	711	629	665	622	567	498			
(増減)	△ 23	△ 26	37	△ 99	△ 35	△ 21	21	2	△ 48	26	△ 75	33	△ 17	△ 53	48	△ 26	16	△ 11	△ 59	58	△ 75	13	7	△ 49	△ 35	30	△ 48	△ 41	△ 82	36	△ 43	△ 55	△ 69		
米子市	1,518	1,470	1,581	1,413	1,492	1,435	1,512	1,463	1,505	1,473	1,395	1,421	1,420	1,363	1,297	1,422	1,291	1,366	1,303	1,337	1,311	1,359	1,320	1,292	1,293	1,223	1,206	1,104	1,103	1,149	1,015	950			
境港市	402	355	386	333	360	330	349	340	331	314	308	281	279	282	266	255	271	258	283	259	264	276	269	259	267	246	235	204	202	205	181	192			
西伯郡	398	335	436	369	412	335	356	357	371	338	346	356	319	329	340	275	282	291	295	306	263	324	307	319	344	318	283	290	243	243	228	213	181		
日野郡	132	120	124	121	88	100	85	82	82	78	81	73	70	61	60	48	39	54	35	51	46	52	45	44	41	35	33	41	39	33	26	36	25		
北斗中	60	42	48	46	44	64	58	55	46	53	60	34	36	38	39	21	31	56	29	39	31														
小計	2,510	2,322	2,575	2,282	2,396	2,264	2,300	2,297	2,335	2,256	2,190	2,165	2,124	2,073	2,002	2,021	1,914	2,025	1,945	1,992	1,915	2,011	1,921	1,942	1,944	1,892	1,774	1,766	1,590	1,581	1,606	1,445	1,348		
(増減)	38	△ 188	253	△ 293	114	△ 132	96	△ 63	38	△ 79	△ 66	△ 25	△ 41	△ 51	△ 71	19	△ 107	111	△ 80	47	△ 77	96	△ 90	21	2	△ 52	△ 118	△ 8	△ 176	△ 9	27	△ 163	△ 97		
西部地区																																			

(注1) 令和7年以前は、3月中学卒業者数。

(注2) 令和8～10年は、令和7年5月1日現在の中学校在籍者数。策数屋中は米子市に含まれている。(特別支援学級生徒も含む)

(注3) 令和11～16年は、令和7年5月1日現在の小学校在籍者数。(特別支援学級生徒も含む)

(注4) 令和17年以降は、市町村の推計による。

¹ DX：デジタル変革。「IT の浸透が、人々の生活をあらゆる面でより良い方向に変化させる」という概念。(DigitalTransformation)

² Society5.0：サイバー空間（仮想空間）とフィジカル空間（現実空間）を高度に融合させたシステムにより、経済発展と社会的課題の解決を両立する、人間中心の社会（Society）。狩猟社会（Society 1.0）、農耕社会（Society 2.0）、工業社会（Society 3.0）、情報社会（Society 4.0）に続く新たな社会。

³ SDGs：持続可能な開発目標。2015 年 9 月の国連サミットで加盟国の全会一致で採択された「持続可能な開発のための 2030 アジェンダ」に記載された、2030 年までに持続可能でよりよい世界をめざす国際目標。(SustainableDevelopment Goals)